（別紙様式）

都道府県番号	2
都道府県名	青　森　県

（①□　②☑　③□）

※該当する観点にチェックをすること

Ⅰ．学校名及び規模

青森市立荒川小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	2	0	7	12
児童数	28	34	36	35	29	47	0	209	

Ⅱ．実践研究の概要

・主題

学ぶ意欲を持ち、主体的に学習に取り組む児童の育成
～算数科の指導を通して～

・テーマ設定の趣旨

本校の児童は、既習事項の見直しをする場を設定することにより、一人一人が自分の考えを持って意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。しかし、問題を解決する能力や追求意欲が弱く、多様な見方や考え方で調べたり、思考を深めたりするところまでには至っていない。

また、自分の考えを表現できる児童も少ないという実態がある。

そこで、個に応じたきめ細かな指導をより一層推進することによって、基礎的・基本的内容がしっかりと身につき、自力で解決していく力や、より豊かに表現する態度が育っていくのではないかと考え実践を通して研究することとした。

Ⅲ．実践研究の内容について

（ｉ）研究体制の工夫

1　学力向上フロンティア研究推進委員会の開催
- 標準学力検査の結果分析
- 算数科における年間計画の作成と評価基準の検討
- 全学年で複数の教員による指導体制の確立

2　校内研究会の実施
- 全教員による授業研究
- 講師を招いての授業研究
- 低・中・高学年に分かれての教材研究

・荒川中学校での講演会参加（弘前大学　数学教育　太田伸也教授）

３　荒川中学校との連携

・研究計画の相互理解、学力分析の情報交換

・算数・数学の授業参観

４　研修だより「涓滴」の発行

・学力フロンティア事業についての共通理解

・学力フロンティアスクールとしての本校の取り組みの共通理解

（ⅱ）実践研究の内容

全学年の算数の学習でティームティーチングを取り入れ、授業実践を通して研究を深める。

１　個に応じた指導のための工夫・改善

〇基礎的・基本的な内容の定着を図る指導

・課題別学習や習熟度別学習、個別学習等の工夫

〇主体的な学習活動をめざす指導

・自力解決での複数の指導者による支援の工夫

〇表現活動の工夫

〇朝の指導の時間の充実

〇発展・補充のための教材の工夫

２　評価を生かした指導の工夫・改善

〇児童の実態を把握した指導

〇評価規準・評価基準を取り入れた指導計画の作成

３　個に応じた指導のための教材の開発

〇習熟の程度に応じた発展・補充等の指導の工夫

４　中学校との連携指導の導入

・特に算数・数学を通しての授業実践に取り組む

（ⅲ）成果と課題

学力診断テスト（算数科ＣＲＴ）の結果は次の通りである。（単位は%）

Ａ（十分満足）とＣ（努力を要する）の割合

		２年		３年		４年		５年		６年	
		昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年
関　心	A	５７	８８	７５	８６	９４	７９	６７	８６	４２	７７
意　欲	C	３	０	１１	８	３	３	１５	３	１３	４
数学的	A	３７	４５	５０	８６	９０	７９	４４	５９	５６	５５
な考え	C	２０	１８	１７	６	０	９	３０	２８	２０	１３
表　現	A	５１	９４	９４	９７	７７	９１	７４	７６	６２	９４
処　理	C	１１	３	３	０	３	０	４	１０	７	２
知　識	A	４０	６７	８６	９２	８１	９７	７４	９０	７６	８１
理　解	C	１４	３	３	０	０	０	７	３	７	２

〇成　果

１　今回の結果と昨年度の結果を比較してみると、全般的によい結果となっている。特に、表現処理の力は大きく向上している。これは、繰り返しによる練習の成果だと思われる。

２　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
・朝の指導の時間（１５分のモジュールタイムの設定）の活用の結果、既習内容の確認や定着が図れるようになってきた。
・学習環境を整え、学習内容の系統性を考えて指導に当ることにより、既習内容の活用を図れるようになってきた。
・ＴＴの指導により、発展的な学習や補充的な学習の場の設定ができるようになり、ＴＴによる教材の準備ができるようになった。
３　個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
・ＴＴによる課題別学習や個別学習等を通して、個が生き、個人差に対応した学習に取り組めるようになった。
・「算数ひろば」を設置することによって、児童の興味・関心・意欲の向上を図ることができた。
４　児童の学力の評価を生かした指導の改善
・学力診断テストの分析と活用により、重点的に指導すべき学習内容や個の指導の充実を図ることができた。
・座席表の活用により、授業における児童の評価が図られた。
・評価規準・基準を取り入れた指導計画を作成することにより、指導の重点が明確になり、個を生かした授業の組み立てを図れるようになってきた。

○課　題
１　４年生の関心・意欲、数学的な考え方の面で落ち込みがある。また、５年生の表現処理においてＣの段階が若干増加している。原因をよく探り指導に当たらなければならない。
２　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
・朝の指導の時間（１５分のモジュールタイムの設定）におけるプリントの活用(内容、評価等)をさらに検討する必要がある。
３　個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
・習熟・発展の学習をさらに図るための時間の設定（放課後の復習タイムや全校一斉に行う計算タイムなど）や運用について考慮中である。
・小中連携における指導の共通理解や指導体制の整備が必要である。

（ⅳ）成果の普及方策

平成１４年	９月２５日（水）	東青管内小・中学校長研究協議会で概要説明
平成１４年	１１月１５日（金）	秋田県鷹巣町教育センター小中研究主任会の学校訪問で概要説明
平成１５年	１月２８日（火）	岩手県盛岡教育事務所管内教員県外研修による学校訪問で概要説明
平成１５年	２月　３日（月）	秋田県大館市小中教務主任会の学校訪問で概要説明
平成１５年	５月２２日（木）	管内小・中教務主任研究協議会で発表